

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2774002352		
法人名	特定非営利活動法人 いきいきライフ協会		
事業所名	グループホームいきいき東豊中 2階		
所在地	大阪府豊中市熊野町3丁目3番47号		
自己評価作成日	平成25年3月14日	評価結果市町村受理日	平成25年5月13日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人ニッポン・アクティブライフ・クラブ ナルク福祉調査センター		
所在地	大阪市中央区常盤町2-1-8 親和ビル4階		
訪問調査日	平成25年4月19日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当ホームは、今年で10年目を迎えます。月日の流れと共に、ご利用者の入れ代わり又状態も大きく変化し、更に個別ケアが必要となってきました。私達は、毎日ご利用者の(その時)を見極めて、今その方にとっての一番良い暮らしを、提供できるように支援しています。又ここ熊野町は、「くまんだ村」と呼ばれるほど、今だに昔ながらの風習が、沢山残っています。地域行事として、近隣神社のどんど祭りやみこし祭りは、ご利用者の心を元気にし又いつでも手を合わせる癒しの場所として、毎日散歩に出かけることができます。そして子供たちと触れ合いたいと思えば、ホーム前に中学校があります。学校行事の運動会や音楽会等に、招待して頂いたり、毎年体験学習として、元気な生徒の皆さんがお手伝いに来てくれます。この素晴らしい環境のなかで、笑いあり涙ありの楽しい日々を、ご利用者と共に過ごしています。

--	--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念に掲げたものだけにならないように、適所に掲示し実践につなげている。又会議等では、常に理念について振り返り、役割について認識を高めている		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	当ホームにて、「高齢者の財産管理」をテーマにセミナーを行った。参加の呼びかけに、多数の地域住民が集まり交流を深める事ができた		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の行事には、積極的に参加し、認知症についての理解を頂いている。又地域の方からの相談事も、受けるようになった		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	推進会議では、報告や情報交換は豊富にあるが、実際には、サービスの向上の為の、結果につながる事は少ないと思われる		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	推進会議にて市役所役員、地域包括支援センター、地域関係者へ事業所の実態を報告し意見・アドバイスを受けている。又電話での相談等は、常におこなっている		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	リビング扉は常に鍵はかけず、自由に行き来できているが、玄関扉は安全確保の為施錠している。だが、利用者の気持ちを優先し、職員が見守れる時間を作り開錠している		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待については、研修等をおこない告知義務にて防止に努めている。又見逃し易い言葉の虐待については、常に声を掛け合い見逃しのないように注意している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	セミナーにて後見人制度について、事例等を交えて解りやすい解説を学んだ。個々の必要性を考えて支援につなげたい		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書・重要事項説明書にて、十分な説明をおこない、理解を得ている。又不安や疑問については、十分に話し合い納得頂いている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時には、近況報告と共に、個人日報を公開し言いにくい部分については意見箱を設置し、対応している		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	運営に関して、職員の意見等があれば、管理者・リーダーと話し合い代表へ提案し、即時に対応出来ている		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の雇用形態就学条件を考慮し、且つ本人の能力、努力を評価した賃金体制としている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	経験や習熟度に合わせた研修の参加を促し、その研修報告は会議等でおこない、職員全員で認識を高めている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	定期的に同業者と連絡を取り、それぞれの施設訪問をおこない、サービスの向上に努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	常に受容体制で聞き取りをおこない、ご利用者の立場に立って受け止め、安心した信頼関係が、つくれる様に支援している		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	不安や悩みを抱えているご家族に対し、その方の立場に立って考え又本音の部分を見逃す事の無いように、慎重に傾聴しながら、関係づくりに努めている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご家族とご利用者との、悩みや思いが違う場合、お互いにとって、今一番必要とする支援を、多様な方向から見極めて対応している		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者の性格や個性を、今までの生活暦等の情報から収集し、暮らしの中で今出来る事を見つけ、又支えながら、共に過ごしている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族の不安や負担を軽減しながら、安心の中で職員と共に、ご利用者を支えていける関係づくりに努めている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	なじみの関係が壊れないように、友人等の面会時には、さりげなく関わり混乱しないように、見守り支援している。又電話でのやり取りは、ゆっくりと居室でおこなっている		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずにご利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ご利用者の性格や個性を十分に見極めて、お互いが不穏な思いのないように、関わりを支援している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後も、ご利用者の面会に出かけたり、ご家族からの相談等があれば、一緒に考え解決出来るように努めている		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	徹底した個別ケアをおこない、その方の今を大切にし、思いや意向の把握に努めている。又訴えの少ない、ご利用者に対しては、積極的に関わりを持ち、心の声を聞きだせるように努めている		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	担当ケアマネージャー・ご家族・知人又ご本人の会話の中から、情報を収集し把握に努めている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	その日の、申し送り・日報等で1人ひとりの状態を把握し、穏やかな暮らしが出来るように努めている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	月一度の会議にて、問題点や改善点を話し合い又ご利用者やご家族の本音の部分、出来る限り収集しながら、一番良い暮らしの為の介護計画書を作成している		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子については、毎日個別の記録を取り、気づきについては、申し送りノート、順次口答にて職員全員が、情報を共有し実際に繋げている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご利用者やご家族の状況、状態により職員が通院の付き添い同行や、又入院の際には、ご家族のかわりに、面会等をおこなっている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	協カボランティアの来訪(ギター演奏・日本舞踊・手品・紙芝居等)や地域行事が盛んであり、ご利用者が、それぞれ興味のある行事に参加し楽しんでいる		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診等については、訪問往診を希望される場合となじみの、かかりつけ医を希望される場合とがあり、それぞれ希望にそって関係を築き、早期発見に努めている		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	往診クリニックでは、定期的な往診のほか24時間体制で適切な指示を受ける事ができる。又疑問や相談事にも、的確な答えを、もらう事ができている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	かかりつけ医への緊急入院では、お互いのサマリー等の情報交換が、スムーズにおこなえている。病院関係者との、情報交換も家族と共にこない早期退院に努めている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に重度化や、終末期の対応は出来ない事の説明をおこなっているが、出来るだけ、ご家族の希望や、ご利用者の状況を把握し、本人にとって一番良い暮らしを、提供できるように支援している		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	事業所内で、毎年心肺蘇生法や応急手当の研修等を施行している。職員は定期的に参加し認識を高めている		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害時に、ご利用者はどのような行動をとるのか想定できない為、職員全員が、臨機応変な対応ができるように、マニュアルを作成し訓練を施行している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個別ケアを徹底し(その時)のご利用者に合わせて対応をおこなっている。言葉をかける時には、相手の気持ちになって、常に優しい対応を心がけている		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	十分な意思疎通が出来ないご利用者へは、ボディタッチや手を握りながら、声かけ等をおこない今何を伝えたいのかを見極めて、自己決定できるように働きかけている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりの、その日の体調、訴えを見極めて、ご利用者が、自分のペースで暮らせるように支援している		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	訪問理容では、本人の希望でカット・カラーをおこなっている。又眉カット・メイクをされた場合は写真撮影をおこなっている		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	ご利用者やご家族の希望や情報を得て、出来るだけ意向にそった、献立を立てている。テーブル拭きや、トレイ拭き等の簡単な手伝いに限られてはきたが、職員と一緒に楽しく、おこなえている		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	ご利用者に応じて、刻み食やミキサー食を含め栄養のバランスを考慮した食事を提供している。又その日の体調により、メニューを変えている。水分量も細かくチェックし、脱水にならない様に対応している		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後は、一人ひとり口腔ケアをおこない、できない所は、職員が介助している。又ミキサー食の、ご利用者へは、汚れや臭いが残らないように、口腔ウェットにてケアをおこなっている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表にて、ご利用者の排泄パターンを把握し、トイレ誘導をおこなっている。尿意、便意を自身で感じてもらう為、表情や動きを見極め、本人の意思を尊重し、その後誘導をおこなっている		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄チェック表にて、一人ひとりの排泄パターンを把握し、便秘になる前に、飲食物や運動等を積極的におこない、予防に努めている		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	ご利用者の、その日の気分や体調により、順番を決めず、臨機応変な対応をおこなっている。又入浴されないご利用者へは、足浴をおこなっている		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	前日の申し送りと、その日の申し送りや体調に応じて、休息を促している。又無理に就寝を勧めるのではなく落ち着かれるまで、職員は寄り添い安心して入眠できるよう支援している		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬は、必ず2人でおこない、用法や用量を確認している。副作用が強い薬を服用した場合には、様観ノートにて、見落としの無いように、細かく記録している		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ご家族からの情報や、ご利用者の会話の中から役割や楽しみごとを見つけ出し、張り合いのある日々を送れるように支援している		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	可能な限り外出できるように支援してるが、現在では限られた方だけの外出となっている。その為ホーム内では、外出支援に似た環境づくりをおこない、外出気分を感じれるように努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個人的に、金銭管理はおこなっていないが、買い物等へ出かけた時は、見守りの元支払いを促し、使えるように支援している		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話は職員が取り次ぎ、居室にて家族や知人等とゆっくり話せる時間をつくっている。お正月には少数ではあるが、年賀状のやり取りができています		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	トイレから浴室へつながる扉は、汚染時に不快や混乱を招くことなく、すばやく対応できるようになっている。又踊り場に設置してある憩いのスペースはご家族やご利用者が心地よく過ごせる場所となっている		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	適所に設置してあるソファは、気の合う者同士や又1人でのんびり過ごす場所となっている		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	一人ひとりの、居室には危険な物が無い限り持込の制限は無く、ご利用者が穏やかに過ごせるようにしている。そして、馴染みのものを見つけては、思い出を懐かしみ、会話を楽しむ事ができている		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレを認識できないご利用者へは、大好きなペットの写真を扉に貼ることで、スムーズに対応できている		